

ヒューマンセキュリティに関するパブリックフォーラムを開催しました (2015/3/18)

テーマ：災害に関連する結核感染症についての発表及び共同研究の研究打ち合わせ

場所：仙台市民会館 第1会議室

3月18日(水)に災害とヒューマンセキュリティに関するパブリックフォーラムが開催され、当研究所 災害医学研究部門の服部俊夫教授が企画に携わりました。

ヒューマンセキュリティとは、安全保障の課題として環境破壊、人権侵害、難民、貧困などの人間の生存、生活、尊厳を脅かすあらゆる種類の脅威を包括的にとらえ、これらに対する取り組みを強化しようとする従来とは異なる安全保障の概念です。2011年に発生した東日本大震災の中心地で開催される第3回国連防災世界会議にて、「人間の安全保障」の概念のうち「災害」に特別な関心を寄せられています。この災害はまさに人々から、「欠乏からの自由」そして「恐怖からの自由」を奪うものでした。そこで、国連大学と連携し、「災害とヒューマンセキュリティ」の問題に特に重きを置いた、ヒューマンセキュリティの諸問題を議論することを目的として本研究会議を実施しました。当研究所の災害医学部門は、北海道大学人獣共通感染症センターの鈴木定彦教授をお招きして、災害時における結核についてご講演頂き、その中で、ハイチにおいて災害後に結核の増加が生じたことと、そのような結核を災害時に診断する方法について概説されました。フォーラム第1部の基調講演に続いて、第2部では甚大な災害に遭ったことを想定して行うロールプレイングゲームが実施されました。



講演会場の様子

文責：服部俊夫教授（災害医学部門）